



2/10 Hirado City Photo News
春を告げる迫力の炎



川内峠で、毎年恒例の野焼きが行われ、約30ヘクタールの草原が炎に包まれました。この日は、消防職員や消防団、地元住民ら約150人が参加し、川内峠南側から順次火を着けました。

昨年まで設けられていた感染症対策のための人数制限も撤廃され、4年ぶりに多くの見学者たちが炎の燃え広がる様子をカメラに収めていました。

この野焼きは、防火と家畜用の牧草の育成、草原の保全を目的として行われており、市内では他に「佐志岳」や「上段の野」でも実施されました。

2/3 Hirado City Photo News
赤ちゃんたちがはっけいよい



最教寺奥の院で4年ぶりに「子泣き相撲」が開催され、全国から150人の赤ちゃん力士が参加しました。

子泣き相撲は、約400年前、赤ちゃんの泣き声が亡霊を退散させたという逸話が起源で、現在は赤ちゃんの健康を願う行事として毎年節分の日に開催されています。

会場には、力強い泣き声と子どもの健康を願う親の笑い声が響き、また、なかなか泣かない赤ちゃん力士へ、家族や行司からの「はよ泣かんばよー!」との温かい声援が飛び交いました。

1/21 Hirado City Photo News
声を合わせて「はい、ばってん」



平戸文化センターで、NPO法人九州プロレス主催の「平戸ば元気になるパイ」が開催されました。

九州プロレスは、「九州ば元気になるパイ」の理念のもと試合や施設訪問を行っており、平戸市での試合は3回目。前回からのリピーターも多く、試合前に行われたプロレス教室では、参加者皆で「はい、ばってん!」と声を合わせて盛り上がりました。

試合が始まると、ダイナミックな技が決まるたびに、会場からは大きな歓声が上がり、選手を応援する子どもたちの声援が会場内に響きました。

1/21 Hirado City Photo News
日英の400年の歴史をしのぶ



2023年は平戸英国商館閉鎖から400年の節目にあたり、11月には京都二条城で、12月にはロンドンの日本大使館で記念式典が開催され、平戸市でも植樹式および講演会が開催されました。植樹式では、平戸市役所玄関横の英国商館記念碑の裏に、キンモクセイの木が植えられました。

また三浦按針(ウィリアム・アダムス)の居宅跡とされている按針の館(現平戸蔦屋)では、UK-JAPAN 400共同議長のタイムン・スクリーチ教授の講演などが行われ、その後、交流会が行われました。

2/11 Hirado City Photo News
海のきらめきの中を疾走



生月支所前をスタート・ゴールとし、島の東側の海岸線に沿うコースで行われる「いきつきロード2024」大会が開催されました。

今回は、小中学生から一般、ファミリーの部まで、全22種目に、市内外から約500人が出場し、日ごろ鍛えた健脚を競いました。

沿道には応援のために多くの人が駆け付け、温かい声援を送っていました。招待選手として県内の実業団や陸上名門校で活躍する選手も参加し、参加者らと一緒に走る姿が見られました。

2/10 Hirado City Photo News
持続可能な地域への10年



平戸文化センターで「協働のまちづくりシンポジウム」が開催されました。

市内に初めてまちづくり運営協議会が設置されて10年を迎え、各地域の特性に合わせた事業を計画し、持続可能な新しいコミュニティを作ろうと歩んできた各まち協の10年を振り返り、今後10年の方向性を考えるもので、約180人が参加しました。

(一社)ナガサキベイデザインセンター代表理事の梅元建治氏の講演と、度島・志々伎・山田館浦・大島の各まち協の事例が発表されました。

1/28 Hirado City Photo News
平戸へのアクセスがより便利に



平戸大橋交差点と田平中学校付近を結ぶ、県道平戸江迎線田平工区2.3kmが全線開通し、開通式が行われました。

開通式では、テープカットや車両パレード、田平中学校吹奏楽部の演奏が行われ、関係者など約70人が参加しました。

県道平戸江迎線田平工区は、西九州自動車道平戸インターチェンジ(令和7年度開通予定)へのアクセス道路として整備され、平戸インターチェンジが開通すると、さらなる交流人口の増加が期待されます。

1/26~27 Hirado City Photo News
70回の歴史に幕を下ろす



第70回都市対抗県下周駅伝大会が開催され、大会1日目、2日目に平戸市内を駆け抜けました。

42区間407.3キロメートルを走るこの駅伝では11チームが健脚を競いました。平戸市チームは34人の選手が参加し、前大会のタイムから1時間17分55秒短縮し躍進賞を受賞しました。

小学生から社会人まで幅広い年代でタスキをつなぎ、多くの人に愛されてきた都市対抗県下周駅伝大会は第70回大会を最後に長い歴史に幕を下しました。